

授業概要

保育内容の領域「言葉」について、幼稚園教育要領、保育所保育指針の内容、精神を踏まえた上で、言葉の発達心理学的な解説を行い、さらに保育実践のあり方に関して講義する。

具体的には、言葉の獲得過程を概観し、その過程の発達を促すためには、どのように援助していけばよいかということについて考える。できるだけ新しい知見を取り入れながら、言葉を取り巻く問題を自分たちのこととして捉えられるように授業を進める予定である。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	領域「言葉」の解説
第3回	言葉の発達1 発達段階
第4回	言葉の発達2 聴覚行動の発達
第5回	言葉の発達3 視覚行動の発達
第6回	言葉の発達4 0歳児
第7回	言葉の発達5 1歳児
第8回	言葉の発達6 2歳～3歳児
第9回	言葉の発達7 4歳～5歳児
第10回	言葉の発達8 児童期以降
第11回	言葉と思考1 思考における言葉の役割
第12回	言葉と思考2 自己中心性言語
第13回	言葉を育てる環境1 絵本の役割
第14回	言葉を育てる環境2 絵本の種類
第15回	言葉を育てる環境3 保育者の役割
第16回	筆記試験

到達目標

1. 言葉の発達、領域「言葉」の理解
2. 児童文化財としての絵本についての理解
3. 人的環境としての保育者の役割の理解

履修上の注意

講義が中心ではあるが、その理解を深めるために演習形式も用いる。
能動的な姿勢で臨んでほしい。

予習復習

予習・復習のためのレポートを課す場合がある。

評価方法

授業への取り組み方、定期試験、授業中の提出物、レポート等により総合的に評価する。

テキスト

「新子どもの言葉」 二階堂邦子編 三晃書房
その他講義内で資料を配布する。